



健康ナイトスクールは、患者のための医療はもちろんのこと、医療や介護の理想などを地域住民と語り合おうと始まりました。過疎地の医療を守るためには、病院スタッフの努力だけでなく、住民の理解と支援が欠かせないからです。

こつとした交流を続けることで、互いに理解を深めてきました。最近ではクレームも減少し、住民からの寄付が増加して

## 7年連続で黒字

「なぜ無診察投薬を認められないのか」「定期検査が多すぎるのでは」。町内各地で毎年実施している「健康ナイトスクール」で、藤沢町民病院の開設当初、住民から出されたクレームです。

# 医療は地域の財産、文化

きています。病院は七年間、連続して黒字経営を続けています。

私は自治医大を卒業して、出

身の岩手県に戻り沿岸部にある二つの県立病院で十三年間、内

科医として勤務しました。その後、佐藤守・前藤沢町長から、医療過疎から脱却し、高齢でも安心して住める町づくりをするため病院をつくりたいとの話がありました。その情熱に圧倒され、医療を中心に予防や介護を支援する新しい医療を目指して、藤沢町に移りました。

患者さんの日常生活と一緒に振り返るため、少なくとも一時間を用意しています。患者さん自身が行動目標を決め、守れるように看護師と医師が支援します。それまで改善しなかった患者さんも成果が得られています。

## 完全予約制外来

一九九三年に藤沢町民病院を開設。その後、老人保健施設や訪問看護ステーションなども設置されました。町には他に医療機関はなく、住民の命を守るとりでとなっています。病院は五十四床と小さいのですが、医師は七人いて、病棟外来のほか、百五十世帯の訪問医療や、老人施設の医療も担当しています。

また、睡眠時無呼吸症候群の診断と治療や、冠動脈コンピュータ断層撮影（CT）など、新しい医療技術も積極的に導入しています。

最近では、地域と時代に合った医療を提供しようと、新しい試みもしています。その一つが糖尿病のための健康増進外来で

今、地方の特に公的医療の崩壊の危機が叫ばれています。制度論的な議論も必要だと思いますが、診察室の医師对患者の問題に限定せず、地域で暮らしていくための大切な財産、文化としてとらえることで、医療を守っていくことができると考えています。

(次回予定は徳島県)

さとうもとみ 佐藤元美 2期生、1979年卒



医療や介護の理想などを話し合う地域住民との「健康ナイトスクール」

## 県国保藤沢町民病院

【私の勤務地】藤沢町は岩手県最南端に位置し、人口は約1万人。岩手県国保藤沢町民病院事業として、町民病院、老人保健施設、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション、認知症グループホーム、デイサービスセンター、在宅介護支援センターが一体的に運営されている。